

第二回留学報告書

宇隨 佳

マサチューセッツ工科大学
経済学部博士課程

2022年12月

1 はじめに

MIT 経済学部の博士課程に在学中の宇隨佳です。本稿執筆時点では、日本で束の間の休息を楽しんでおります。本報告書では最初のセメスターを振り返ります。

2 アメリカでの生活

8月に渡米し、経済学部からほど近い（徒歩2分！）**大学院生向けの寮**に住んでいます。寮とは言うものの通常のアパートのような形態で、家族向けの1-2 bedroomの部屋も多く、私も妻と二人で暮らしています。建物は新しく、地下鉄の駅や（つい最近オープンした）薬局が建物を出てすぐのところであり、妻の通うボストン大学にも近いので、結構気に入っています。また study room もあり、同じ寮に住んでいる友人と課題をする際によく利用していました。家賃が高いことだけがネックですが、財団の皆様からのご支援もあり、快適な生活を送ることができています。食事については、自炊をベースにしつつ、忙しい時や気分転換に外食を挟むようにしています。

趣味としては、渡米後に始めた**クロスフィット**が挙げられます。これはウェイトリフティング、自重運動、有酸素運動を組み合わせた高強度の運動プログラムで、通常10人前後のクラスで行われます。何か新しいことを始めたいと思っていたのですが、元々日本にいた時から趣味として筋トレをしていたこともあり、クロスフィットにたどり着きました。毎度限界まで追い込まれ、自分は何をしているのだろうと運動中に考えてしまうこともありますが、不思議なもので少なくとも週4日はジムに足を運んでいます。結果として、学校外にもコミュニティを拓けることができ、授業や研究を完全に忘れられる良い休息になっています。

3 学校生活

MITの経済学部は一学年約20人で構成されており、私の学年も21人から成ります。比較的少人数であるため、全員とある程度の交流を持てるのが利点です。標準的なカリキュラムとしては、最初の1年間はミクロ・マクロ・計量経済学の必修科目3つと自分の興味に沿ったフィールド科目1つの計4科目を履修することになっています。ただし、学期の初めに試験を受けることで必修科目の履修を免除することも可能で、私もこの制度を利用し、ミクロ経済学をパスしました。そのため、今学期はマクロ・計量の必修とフィールド2科目を履修しました。必修科目は東大と比べて倍

のコマ数だったため、より深く学ぶことができました。ただ内容自体は既知のものが多く、2つのフィールド科目（14.281 Contract economics と 15.470 Asset pricing）に時間を割きました。どの授業にも毎週のように宿題があり、一週間に4つの課題を抱えるということも少なくありませんでした。ただその中で、同じフィールド科目を履修した友人と議論する中で研究のネタを見つけることもできました。冬休み中にミーティングを重ね、具体的な研究の方向性を固めていく予定です。学期中に苦しい思いをした分、報われて欲しいものです。

英語に関しては、学期開始前の English Evaluation Test に合格したため、英語の授業を受ける必要はありませんでした。ただ、同級生のほとんどがネイティブスピーカーであったり、あるいは英語圏の大学で研究した経験があるので、英語力はまだまだ十分といえるものではありません。こればかりは一朝一夕で解決できないので、日々の学校生活を通じて地道に改善していきたいです。

4 おわりに

私がこうして留学生生活を存分に楽しめているのは船井情報科学振興財団の皆様のおかげです。少しでも早く結果で恩返しができるよう、来学期以降も授業と研究に全力を尽くして参ります。